

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 8 月 23 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程
氏名	浅見真生

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	東京都・東京国際フォーラム
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	丸の内キッズ・ジャンボリー2016「山の教室」出展
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	平成 26 年 8 月 15 日 ~ 平成 26 年 8 月 18 日 (4日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	東京国際フォーラム
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	

「丸の内キッズ・ジャンボリー」は子ども達へ「未来の夢を育む驚き・感動・発見を届けたい」という想いをコンセプトに、東京国際フォーラムにおいて 2007 年より毎年開催されているプログラムである。本年は、PWS・JMC・株式会社ウィンズ・インターナショナルの協力により、「山の教室」と題したワークショップを開催し、3 日間の開催日と準備日の 4 日間参加した。

会場には、山の教室・海の教室・ブータンの教室・平原の教室・森の教室・動物園の教室・アマゾンの教室・ラボの教室とそれぞれ小テーマに分かれたブースを設けた。霊長類の等身大パネルや、WRC の学生が撮影したイルカの動画、解説パネルを設置した他、触れる展示としてヒトや類人猿の頭骨のレプリカ、サルの毛皮を展示した。また、ワークシートを配布したことで子どもがじっくりと展示を見てくれたように感じた。

来場した子どもの年齢層は幼稚園から中学生までと幅広かったが、展示物を見るだけでなく担当者が声を掛け、解説や質問を投げかけながら順路を設定しない会場内を自由にめぐってもらったことでそれぞれの興味に合った対応が出来たように思う。限られたスペースの中で、展示できる情報は限られていたが、解説者の自由度が大きいので、参加した学芸員や学生それぞれの解説・対応を身近で聞くことが出来たことは大きな成果であった。3 日間参加したことで沢山の子どもと接しながら、どうしたら動物の面白さが伝えられるのか試行錯誤できたことも、良い経験であった。

企画の段階では全く参加できず、当日参加のみとなってしまったイベントであったが、JMC の学芸員や WRC の学生・職員と共に企画の運営に参加できたことで学ぶことが多く、刺激の多い 4 日間となった。この経験を活かし、人に伝わる展示・話とはなんなのかということを考えていきたい。



写真 1：受付での呼び込み



写真 2：2 日目の講座

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

本企画は PWS の支援を受けて行われました。企画をまとめて下さった松島様、本企画に参加して下さった方々、そして PWS 支援室の皆さまに厚く感謝申し上げます。